



草笛学園 2024年10月号

自分で決めるチャンスを奪わない

大人のいいなりになるような年齢の低いあいだから、子どもには自分で決めることのできるチャンスを多く作ってやりましょう。大人の望んでいる通りに子どもが決めるとは限りません。しかし、子どもは失敗から学んでいきます。自分で選ぶチャンスは、失敗から学ぶ機会を作ることになります。小さいときの失敗は、いくらでもやり直しができます。大人が好ましいと思わないおもちゃを子どもが選んだとしても、一度遊んでみて「つまらなかった」ことがわかればそれでいいのです。いつも、最後は自分に決めさせてくれると感じる大人への信頼感が、大きくなってから生きてきます。

子どもが決めたことを尊重する

子どもがせっかく自分で選んでも、その結果が尊重されないのでは、チャンスをもっても水の泡になってしまいます。それがどんな結論であっても、子どもの選択を尊重しなくては信頼関係は作れません。さらに、自分で決めても、させてもらえないことが続くと、自分で選ぶこともしなくなります。おもちゃのかたづけをしなさいと言っても、「テレビ見てからする」と言ってなかなかかたづけられない。よくあることです。その時に「あんたは言うだけで、いつもかたづけるのはお母さんや」と怒っても仕方ありません。結果的にお母さんがかたづけてしまうと、子どもは「お母さんもうるさく言うだけや」と思ってしまいます。自分でかたづけ始めるまで待つ余裕が必要です。うるさく言わなくても、お母さんは待ってくれるということを実感したら子どもはその信頼に応えます。

大人の考えをことばでていねいに伝える

これも、子育ての中で「くせ」にしておきたいことです。「子どもは親の背中を見て育つ」では子どもは育たないと書きましたが、必要なのは、しっかり正面から抱

きとめることと、ことばで考えを伝えることです。わかっているのかと思うような小さい時期から、子どもがかんばったらことばでほめたり、いけないことをしたら「なぜいけないのか」をことばで説明することが必要です。そして、もっと必要なのは、からだで示すとともに、ことばでも、「あなたが、かけがえのない私の大切な人である」ことを伝えてほしいのです。話すことが苦手なお父さんも、大きくなってからではもっと照れくさくて言えません。小さいときから練習しておきましょう。いけないことをしたときは、うんと努力して言葉で伝えます。一発叩いて「わかったか」ということがないようにしたいものです。大人がことばを節約すると、子どもも同じように「うるさい！」の一言でかたづけてしまいます。

参考文献「ちょっと気になる子どもと子育て」池添素著

時間が無かったり、忙しかったりすると、子どもたちと向き合うことは簡単ではないのですが、子どもたちが何を思い、何を考えているのかを子どもたちの目線に立ち考えてみる余裕が大人には必要なのかもしれないね。ひと呼吸おいて子どもたちの声に耳を傾けてみると、子どもたちの意外な一面が見れるかもしれないね♪

次回のめだか教室は、

めだか① 11月12日(火) 9:20~11:15

めだか② 11月26日(火) 9:20~11:15

さんぽ に出かけます

持ちもの：リュック、着替え、帽子、水筒

※保護者の方も動きやすい服装でお越しください!

「参加される皆さまへ」～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までにご連絡ください
- ・参加費は無料です。(おたよがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度、連絡します
- ・水分補給のため、お茶をよういしてください(ジュースはご遠慮ください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までにご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください



